
塵箱

こあり

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

塵箱

【Nコード】

N5706I

【作者名】

こあり

【あらすじ】

書いたボツ詩を上げていきます。

気に入った言葉あるので此処からの引用はあるかも。

没壹 古の魔物達

鮮血の悪魔^{メフィスト}

ルビーの瞳

夢魔をも制する

高貴な血筋の偉大な総統者

逆らうは天上の民

欲するは残虐の徒

猛獣を操る毒婦^{ヴァンナ}

ダイヤモンドのドレス

衣擦れと鞭の音

姿は正に百獣の女王

君臨するは魔の世界

従うは幾万の魔物

恋する妖女^{ローレライ}

ゴールドの髪

白絹の肌には血唇^{ブラッディ・ルージュ}

歌声は禁断

恍惚の林檎

水辺で唄い人を誘う

破滅に導くは汚れ無き恋

さあ贄を捧げよ

復讐の代償に

友情には裏切り
尊属には屈辱
愛育には不幸
恋歌には落胤
神には罰を！

没 壹 古の魔物達（後書き）

これは明らかに出来が悪い。

でも最後の部分は気に入っているので他の詩に付けるかも。

没貳 軟禁、或いは監禁王女（前書き）

もともと他にあった詩ですがゴミ箱へ。

没貳 軟禁、或いは監禁王女

私は犬ではないわ

人は犬には成れはせぬ

だから犬ではないわ

こんな事をするのは誰？誰？誰？

国王陛下。オトウサマ 強姦男。オトウサマ 父親。オトウサマ

私は一年中“部屋”オリの中で過ごすの

獣の檻ケタモノと何が違う？

煌びやかなところだけよ

本質はなんにも変わらない

煌びやかなのは夜毎“お父様”アイツがやって来るからよ

私を嬲り弄り辱めにね

今日も“獣”アイツはやってきた

嫌。厭。否。

止めて、吐きそうよ

私はあなたの慰みものではないわ

嗚呼、悍ましい

また“姦淫”が始まるのね

こんな事をするのは誰？誰？誰？

国王陛下。強姦男。父親。

殺してやる

没貳 軟禁、或いは監禁王女（後書き）

これはなんかいけませんね。

病みすぎです。暗いし鬱になる・・・。

没参 毒華心中（前書き）

これもゴミ箱へ。

一応アリプロのプアゾンに憧れて書いたものです。

没参 毒華心中

私は毒の華

害を来す

悪の女王

夜の吐息は今日も冷たく

私に降り堕ち毒となる

太陽の機嫌の儘に^{ママ}

朽ち果てて逝く綺麗な花たち

私は無毒の花とは違う運命^{サダメ}

私は毒の華

猛毒を盛る

邪の娼婦

魔の粒子は私に染み入り

貴方を殺す刃となる^{ヤイバ}

人間の欲の深さに

摘み取られて逝く不幸な花たち

私は無抵抗の花のように服従しない

私は毒の華

幸せを刈り取る

罪の化身

そして私は貴方を蝕む^{ムシバ}
貴方を殺して共に逝く

獣の命の為に

咬み潰される弱い花たち

私は誰かの為には死なない

私は毒の華

命を喰い荒らす

死の植物

没参 毒華心中（後書き）

学校のストレス発散程度で書きました。
林檎らしい毒々しい詩です。

毒を小壘に詰めるように
血液に注ぎ込むように

そういう詩が書きたかったのですが。
形に拘りすぎました。
消して心に残る物じゃあない。
今回は本人も認める程の駄作！！

没肆 墮ちたる天使の調べ（前書き）

これも塵箱へ。

何度もすいません。

没肆 墮ちたる天使の調べ

私は貴方に

とこしえの追従を誓う

天使

天高く聳える石碑に

天使の鮮血で

祈禱文を綴る

貴方への最後の饒

祈禱文に運命を託す

一番大切な

貴方を幸せに

この血で描かれた

憎しみと悲しみに満ちた

世界

たった独りで

紅蓮の焰の獄

生き抜く貴方を

守りたい

貴方が始めて天国に来た時

私の全てが変わったの
貴方の心も変わったわ
貴方は隠匿^{リョウシン}を
秘めてしまったの

ねえ、ふたり
地獄の果て
汚れて醜くても
掴めるかしら
悦びの欠片

異端児だと
疎まれたって
孤独なんて
飼い慣らし終いませう

もう後戻りは出来ないから
正義なんて仕留めて
憂いなんて忘れ去って下さい

私は疾うにそんなもの
捨て去ってしまったのだから

地獄を知る天使^{わたし}
深い闇に手を浸す

優しさを

天国の彼方に

忘れ去ってしまった

地獄に住む天使^{わたし}

全ては貴方の為に。

嗚呼どうか、此の掌に

幸福を

狩らせて下さい

私は幸せを狩る唯一人の
天使

私は幸せを奪う唯一人の
天使

私の純白の和毛が
憎しみで
純黒に染まったら

そこには幸せな貴方が居るわ。

私に心を下されば

貴方に捧ぐは
魂

さあ、狩りに出ましょう

暗闇と星屑のマントに純白の翼を秘めて
月が姿を隠す前に

没肆 堕ちたる天使の調べ（後書き）

惟的禁断の愛を書いた詩です。（この頃のPNは嘉条惟でした）
カラストロフィをイメエジしました。

悪魔の“隠匿”というのは良心の事です。

没伍 C a t ' s L o v e

私は貴方の可愛い猫
もつと愛でて下さる？

貴方は撫でてくれるわ
でも、もつと、よ

私の艶やかな膚

ああ貴方、麗しい私に魅せられて

貴方はいけないお人

私はいつも焦らされてばかり

貴方は唯悪戯に撫でるだけなの

愛なんて、貴方はいつもそう言うわ
愛しいアナタ。

私、待ってるの

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5706i/>

塵箱

2010年10月9日22時49分発行